

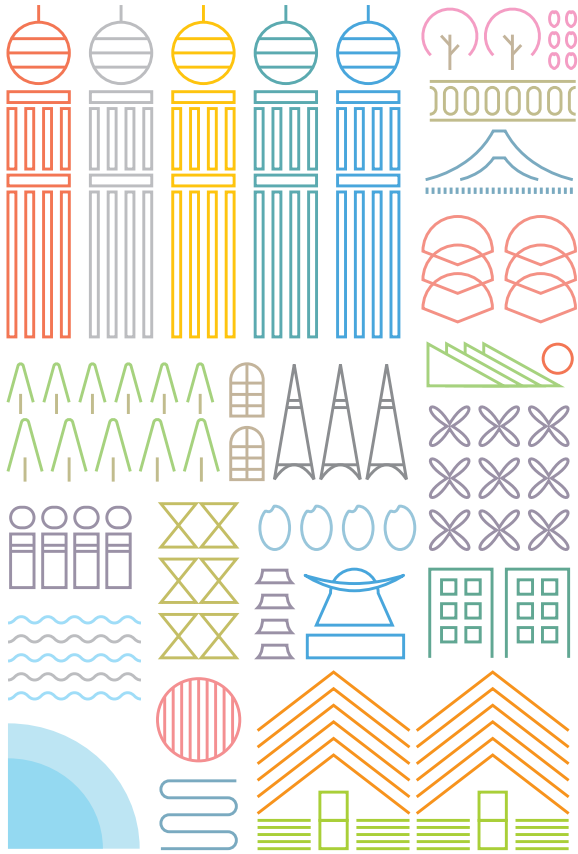
ご縁をつむいで仙台をつくる



企業版ふるさと納税の
ごあんない

事業特集号
Vol.2





仙台市は、
1600年に伊達政宗公が
居城を定めて以来、
雄藩の城下町として栄え、
平成元（1989）年に
東北で初めての
政令指定都市となりました。
「杜の都」と呼ばれる
豊かな自然環境、
「学都」としての
高度な研究開発機能を有し、
東北の政治・経済・学術・文化の
中枢都市として
発展してきました。







▶ 防災環境都市づくり・震災メモリアル事業 震災遺構仙台市立荒浜小学校を通じた 東日本大震災の経験と教訓の継承



防災意識の向上のため、
被災の痕跡を残す校舎を
保存・公開しています

東日本大震災の教訓や日ごろの備えの大切さを伝えるとともに、荒浜地域の歴史や文化を伝えることで日々の暮らしの大切さを感じられる展示となっております。これまでに43万人を超える方が訪れています。



震災遺構
仙台市立
荒浜小学校
Webサイト



東日本大震災の記憶と経験を、 未来へ、世界へつなぎます。

仙台市では、豊かな自然と都市機能が調和した杜の都としてのまちづくりに加え、東日本大震災の経験や教訓を踏まえた、しなやかで強靱な「防災環境都市づくり」を進めています。

震災当時、海岸近くにあった仙台市立荒浜小学校は、津波被害に遭いながらも、校舎に避難した児童や地域住民、教員など320名の命を守った小学校です。震災後、児童は内陸部の小学校を間借りして学習を続けていましたが、発災時の1年生が卒業を迎えた平成28年3月をもって荒浜小学校は閉校し、142年の歴史に幕を下ろしました。

その後、仙台市は、震災の経験と教訓を未来に継承する震災復興メモリアル事業の一環として荒浜小学校の校舎を震災遺構として整備し、平成29年4月30日から一般公開しています。

津波により破損した1階の教室や、倒壊した2階の壁や鉄柵などをありのままの姿で保存するとともに、被災直後の状況を撮影した写真の

展示、地震発生からすべての避難者が救助されるまでの27時間の証言映像の上映を通じ、来館者が津波の脅威を実感し、防災・減災の大切さを考えていただくよう努めています。また、かつて荒浜地域にあった人々の暮らしや歴史を感じていただけるよう、震災前の風景や小学校の思い出などを紹介しています。

発災から12年が経過し、震災を知らない世代が増加する中、令和4年度には、主に小中学生や家族連れを対象とし、災害を身近に感じつつ日ごろの備えにつなげてもらえるような防災教育コーナーを新設し、併せて、震災当時、荒浜小学校の児童や教員だった方々のインタビュー動画を作成しました。子供たちが将来にわたって必要な防災能力を取得できるよう取り組んでいる「仙台版防災教育」とも連携し、これらのツールを活用しながら震災を知らない世代への継承に取り組んでいきます。

震災遺構荒浜小学校は、津波の脅威を実感

する震災遺構であると同時に、元地域住民の皆さんが思いを寄せる地域のシンボルであり、いつでも帰って来ることができる再会の場でもあります。毎年3月11日には、荒浜地域の小中学校の卒業生と有志により結成された「HOPE FOR Project」による追悼イベントが開催され、若い世代を含む多くの方が集まり、3.11に思いを馳せています。

震災当時、荒浜地域の中学生だった方の言葉です。「あの日だけを切り取って、荒浜を悲しいまちと思われるのは寂しい。震災を「点」で捉えるのではなく、震災前にあった暮らしや営み、そして復興が進む今の姿を「線」で捉え、かけがえのない人の暮らしと思いの積み重ねを未来に伝え続けたいと考えています。」

今後も、仙台市は、震災の経験を忘れず、未来の災害へ備えるため、震災メモリアル事業に取り組んでいきます。



photo: 震災遺構仙台市立荒浜小学校



▶脱炭素・資源循環型都市づくり プラスチックごみの分別・リサイクルの推進



製品プラスチック分別収集に関する
市民説明会の様子

事業者との連携により
プラスチック資源循環に
率先して取り組む

海洋プラスチック問題や脱炭素社会の実現に率先して貢献するため、製品プラスチックを含むプラスチックごみの一括回収・リサイクルや、使用済みペットボトルの水平リサイクル推進など、事業者の方々と連携し、先駆的な取り組みを進めています。



ごみ減量・
リサイクルの
情報を発信！
「ワケルネット」



持続可能なまちの実現に向け、喫緊の課題である プラスチック資源循環に率先して取り組みます。

仙台市では、杜の都の良好な環境を次世代へと確実に継承するため、「杜の恵みを活かした、持続可能なまち」を目指し、脱炭素都市づくりや資源循環都市づくり、自然共生都市づくりなどを推進しています。

「ごみの分別」は、市民にとって最も身近で取り組みやすい環境行動の一つです。特にプラスチックごみの分別・リサイクルを進めることは、資源の有効利用のみならず、ごみの焼却により発生する温室効果ガスの削減にもつながるため、カーボンニュートラルの観点からも重要です。仙台市では、これまで国の動きに先行してレジ袋の有料化に取り組むなど、市民・事業者の皆さまとの協働によりごみ減量・リサイクルを進めてきましたが、プラスチックごみの分別・リサイクルを一層推進するため、「製品プラスチック一括回収・リサイクル」や「ペットボトルの水平リサイクル推進」に先駆的に取り組んでいます。

「製品プラスチック一括回収・リサイクル」は、これまで焼却処理していたハンガーヤストロー等の製品プラスチックを、プラスチック製容器包

装と一緒に回収し、リサイクルを行うものです。

令和4年4月に施行されたプラスチック資源循環促進法において、製品プラスチックのリサイクル制度が導入されたことを受け、仙台市では、これまでのプラスチック製容器包装に加え、製品プラスチックのリサイクルにも率先して取り組むべきと判断し、他の政令指定都市に先駆け、令和5年4月から全市域で実施します。

事業実施にあたっては、市内のリサイクル業者と連携して再商品化計画を策定し、国から、全国で第1号となる認定を受けました。令和5年1月からは、市内10地区で先行実施を行っており、実施地区の住民の方々からは、「分別がわかりやすくなった」、「リサイクルできるものが増えてうれしい」といった声をいただいています。

「ペットボトルの水平リサイクル推進」は、家庭から出た使用済みのペットボトルを破砕・洗浄して、新たなペットボトルへリサイクルし、地域内で循環利用する取り組みです。水平リサイクルとは、使用済みの製品を同一種類の製品へとリサイクルすることで、資源を繰り返し利用できるため、

質の高いリサイクルとされていますが、国内でのペットボトルの水平リサイクル率は1割程度にとどまっています。

仙台市では、飲料メーカーや市内のペットボトル飲料製造事業者と連携して、令和4年4月から、この取り組みを開始しており、家庭から収集した年間2,000トンの使用済みペットボトルを、約1億本のペットボトルへと水平リサイクルしています。

リサイクルされたペットボトルの一部商品には、仙台市のごみ減量キャラクター「ワケルくんファミリー」がデザインされ、市内の自動販売機等で販売されています。こうした官民連携による資源循環の「見える化」の取り組みは、全国でも例がないものです。

今後、さらなるプラスチックごみの分別・リサイクルに向け、市民の皆さまにリサイクルを身近に感じてもらえる取り組みを行うなど、事業者の方々とも連携しながら、資源循環都市、脱炭素都市づくりを一層推進してまいります。



資源循環の杜へ

モッタイナイ ONE ACTION!

資源を有効に利用するため、ペットボトルを繰り返しリサイクルする取り組みを行っています。一層の分別・リサイクルにご協力をお願いします。

① 仙台市 伊藤園 TPO

この健康ミネラル **むぎ茶**

リサイクルされたペットボトルでできています。ご家庭から排出された使用済みペットボトルを、新たなペットボトルへ繰り返しリサイクルする取り組みを行っています。

資源を有効に利用するため、一層の分別・リサイクルにご協力をお願いします。

ワケルくん

① 仙台市 伊藤園 TPO

この健康ミネラル **むぎ茶**

リサイクルされたペットボトルでできています。ご家庭から排出された使用済みペットボトルを、新たなペットボトルへ繰り返しリサイクルする取り組みを行っています。

資源を有効に利用するため、一層の分別・リサイクルにご協力をお願いします。

セツコさん

① 仙台市 伊藤園 TPO

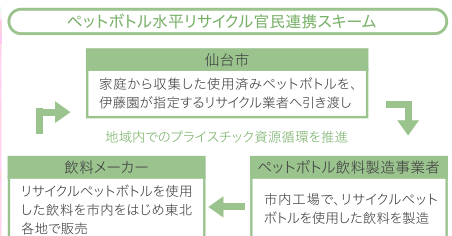


photo:「ペットボトルの水平リサイクル」の取組

PICK UP



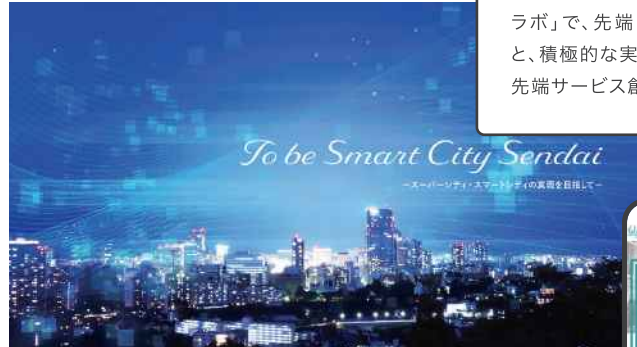
▶ 官民連携プロジェクト推進

国家戦略特区、スーパーシティ・スマートシティの実現、クロス・センダイ・ラボの推進



官民連携プロジェクトの複数実施で
仙台を拠点にイノベーションの推進、
国内外から選ばれるまち・仙台へ

規制改革が可能な制度「国家戦略特区」、未来都市を目指したスーパーシティ・スマートシティの実現、公民連携窓口「クロス・センダイ・ラボ」で、先端技術を活かした地域課題解決と、積極的な実証実験を通して仙台・東北発の先端サービス創出に挑戦しています。



産学官が一体となり、 仙台を拠点にイノベーションを推進します。

平成27年8月、仙台市は「女性活躍・社会企業のための改革拠点」として、国家戦略特区に指定されました。国家戦略特区は、世界で一番ビジネスをしやすい環境を作ることを中心に、大胆な規制・制度の緩和や税制面の優遇を行う規制改革制度。これまで、規制改革や事業者と連携した実証実験を積み重ねています。

具体的な取組の一部として例を挙げると、社会課題解決に取り組む一般社団法人等から、起業時の資金調達を円滑にしたいというニーズを受け、全国初となる「一般社団法人等への信用保証制度」の運用を開始しました。また、外国人の創業活動支援では、在留資格の取得要件の緩和に加え、自治体が認めるコワーキングスペースやシェアオフィスについても初回に限り事業所と認める事業所確保要件を国に提案し、制度拡充が実現しました。事業所は現在、市内2ヶ所が認定され、今後もさらに増加予定です。

医療分野では、仙台市医師会と仙台市薬剤師会の3者共同で、診察から服薬指導までを一気通貫で行うオンライン医療の実証実験を、令和2年度に行いました。その中で課題を洗い出し、令和

5年2月からは、仙台市医師会、東北大学、事業者が協力し合い、看護師が搭乗する医療機器を搭載した車両「医療カー」で実証実験を行い、安価で質の高いオンライン診察の実現を目指しています。人口減少、医師の偏在の課題を抱えた東北地方の課題解決に寄与していくものと思っています。

先進的なジャンルでは、Web3.0ビジネス加速化に向けて、令和5年度に規制改革提案を行っています。規制改革を通して、Web3.0ビジネスにチャレンジしやすい環境整備をし、優秀な起業家や国内外のプレーヤーの集積とビジネスの創出を目指しています。

また、規制改革や先端サービス創出など産学官のチャレンジングな取り組みの一環として、令和4年1月に、約60社の企業が参画した「仙台市x東北大学スーパーシティ構想推進協議会」を設立。先端テクノロジーを活用して、スマートシティを目指しています。本協議会においては、政府が進めるデジタル田園都市国家構想も進めており、複数分野でのデータの活用や、大胆な規制改革を通じて、市民のニーズや課題解決に即した最先端サービスの創出を実現していま

す。将来における急激な人口減少と東京への一極集中が危惧される中、学都仙台の強みであるサイエンスを活かした未来都市づくりを進めています。

さらに、産学官の連携を恒常的なものにするため、民間事業者等からの提案や相談を一元的に受け付け、調整を行う窓口「クロス・センダイ・ラボ」を設置しています。担当部署が明確でない、または複数の部署にまたがるような案件等をワンストップに受け付け、地域課題等の解決に向けた提案実現に協力する「パートナーシップ推進事業」と、AI、IoT、ドローン等の実証実験の円滑な実施をサポートする「実証フィールド支援事業」を行っています。実施に際し、規制改革が必要な場合は、国家戦略特区の活用も可能です。サービス実現に向けた相談や提案、課題解決、ソリューションやサービスの開発などの際は、活用していただきたいと思います。

仙台市のまちづくりの理念である「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～『The Greenest City SENDAI』」を掲げ、新たなまちづくりである未来都市の実現と、仙台・東北発のイノベーション創出に挑戦し、世界から選ばれるまちを目指します。



photo:スマートシティ実現に向けた取組



▶ 地域特性を活かした多彩な資源の発掘・創出 せんだい・アート・ノード・プロジェクト



せんだい・アート・ノード・プロジェクトはアートで「接点(ノード)」を提供

アーティストが地域をリサーチし、アートを制作。その過程を人々と共有することで、鑑賞だけではない接点を提供するプロジェクトです。接点からの派生にも価値が生まれ、様々な展開を見せています。



アート・ノード
Webサイト



「アーティストのユニークな視点と仕事」と 地域の「人材・資源・課題」をつなぎます。

「せんだい・アート・ノード・プロジェクト(以下:アートノード)」は、せんだいメディアテーク(以下:メディアテーク)が平成28年からスタートしたアートプロジェクトです。

メディアテークは、美術や映像文化の活動拠点であると同時に、すべての人々が様々なメディアを通じて、自由に情報のやりとりができるようお手伝いする公共施設です。なぜアートノードを立ち上げようとしたのか、そのきっかけは東日本大震災でした。

震災後、地域のお祭りや郷土芸能復活の報道が多く流れ、復興に地域の文化は不可欠なものであると確信。メディアテークとして復興のために何かできないか、また仙台の文化とは何かを考えた際に、館長であり哲学者でもある鷺田清一氏が「アートを学ぶ場所よりも、アートで学ぶ機会をつくることに注力してみよう」と方向性を示し、アートノードがスタートしました。

アートノードは、「優れたアーティストのユニークな視点と仕事」と地域の「人材・資源・課題」をつなぐアートプロジェクトです。アーティストが仙台・東北をリサーチし、同時代性のあるアート

を制作。調査・企画・制作・発表までの過程を人々と共有し、鑑賞にとどまらない「接点(ノード)」をつくります。そしてアートを囲み、学びや考えを深めるTALKやMEETING、情報発信のためのJOURNALなどの機会も設け、多彩なプロジェクトを展開しています。

プロジェクトのひとつである「仙台インプログレス」は、国際的に活躍するアーティスト川俣正氏による長期プロジェクトです。活動の場所は東日本大震災の津波被害を受けた仙台市沿岸部。新浜地区の住民の「橋が津波で流されて貞山運河を渡れなくなった」という話を受け、「みんなの橋プロジェクト」がスタート。「みんなの橋」表現へ向けて、継続して川俣氏と住民によるワークショップ、対話が行われ、《みんなの船》や《みんなの木道》、《新浜タワー》、《みんなの橋(テンポラリー)》の完成と多様な展開を見せています。

住民は参加だけではなく、これらのアートを活用した独自のイベント「新浜フットパス」を開催しています。また新浜地区の南にある荒浜地区や井土地区で、貞山運河を通じた新たな展開の模索も始まっています。このように、作品をつくるだけ

ではなく、その派生にも価値が生まれています。

「ワケあり雑がみ部」は、ごみにされがちな紙袋やお菓子の紙箱・ちらし・包装紙・カレンダー等の資源物「雑がみ」で何かできないかという仙台市環境局の投げかけがきっかけでスタートしました。不要物を利用した作品やシステムづくりで知られるアーティスト藤浩志氏を部長として迎え、市民参加・全年齢型の部活動として、「雑がみ」を収集・分別した後、工作・展示するなど利活用をしながら、紙への理解を深めたり、造形の楽しさを感じたりしています。コロナ禍では、集まっての部活動だけではなくYouTubeチャンネル「おうちで雑がみ部」を開設したり、オンラインとのハイブリッド開催をしたり、活動の幅を広げています。このプロジェクトは、資源をアートとして楽しみながら、その価値・魅力が目に向くことで雑紙の分別が進み、さらには、様々な環境問題についてみなで考えるきっかけとなる可能性も秘めています。

アートが接点となり、課題解決へと一歩踏み出す機会を提供することで、よりよい未来へつながるのではないのでしょうか。これからもアートノードを通して、様々な接点を創出していきます。



photo:「せんだいアート・ノード・プロジェクト」の活動



企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）とは？

国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みです。通常の地方公共団体への寄附における損金算入による軽減効果（寄附額の約3割）と合わせて、税額控除（寄附額の最大6割）により、最大で寄附額の約9割が軽減され、実質的な企業の負担が寄附額の約1割まで圧縮されます。



活用する
メリット

- 寄附額の最大約9割の軽減効果を活用しながら、地方創生を応援できます！
- 社会貢献や企業のPRをはじめとする事業展開につながります！



例 1,000万円寄附すると、最大約900万円の法人関係税が軽減

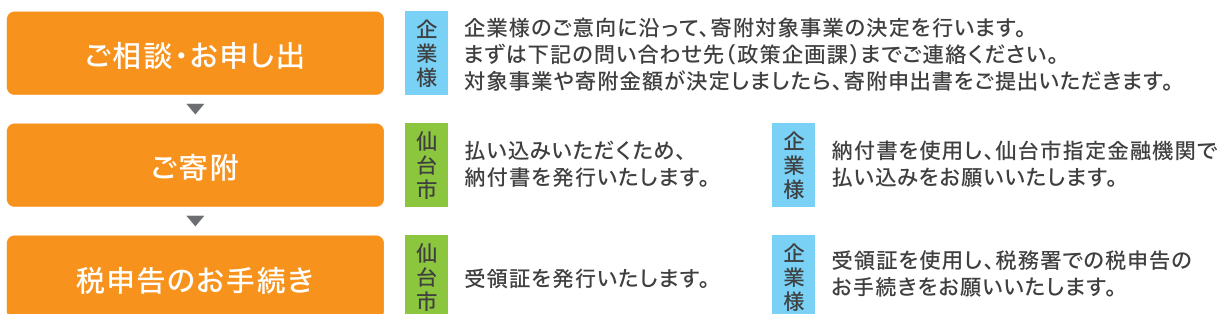
- ①法人住民税 寄附額の4割を税額控除（法人住民税法人税割額の20%が上限）
- ②法人税 法人住民税で4割に達しない場合、その残額を税額控除 ※ただし、寄附額の1割が限度（法人税額の5%が上限）
- ③法人事業税 寄附額の2割を税額控除（法人事業税額の20%が上限）

税額控除の手続（申告）や算出に関しては、税理士や所管する税務署へご相談ください。

留意事項

- ・本制度を活用して仙台市へ寄附ができるのは、仙台市外に本社がある企業です。
- ・1回当たり10万円以上の寄附が対象です。
- ・寄附を行うことの代償として経済的な利益を受けることは禁止されています。

寄附の流れ



事業の詳細は仙台市公式HPをご覧ください

<https://www.city.sendai.jp/machizukuri-kakuka/shise/kigyouban-hurusato/kigyoubanhurusato.html>



これまでご寄附いただいた企業様を
下記特設ページにてご紹介しております

<https://www.city.sendai.jp/machizukuri-kakuka/shise/kigyouban-hurusato/kihukigyousama.html>



問い合わせ先

仙台市まちづくり政策局
政策企画部政策企画課

〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号
TEL / 022-214-1245 E-mail / mac001620@city.sendai.jp